

Relief

リリーフ

2016
October

vol.25

特集 第6回公募助成成果発表会



公益財団法人

JR西日本あんしん社会財団

JR-West Relief Foundation

第6回公募助成成果発表会を開催

平成28年7月31日(日)、平成27年度に活動いただいた団体・研究者の皆様による公募助成成果発表会を、ホテルグランヴィア大阪にて開催しました。ステージ発表とポスター発表に分かれ、活動44団体、研究者3名のあわせて全47組の方々に発表していただきました。



● ステージ発表(発表順)

稲野自治会 災害時要援護者支援活動

これまで何度も防災訓練を実施されており、隣接地域社会、地域教育機関と一体となった活動で防災減災に必要な近隣との結びつきを強めておられます。要援護者を含めた避難訓練や講習会など、その具体的な活動について発表されました。



がんばろう! つばさネットワーク 被災地の元気に貢献する 被災地・大阪間の高校生交流事業

平成23年4月から東日本大震災の復興支援を続けておられます。高校生のスポーツ交流を取り入れることで被災地の元気に貢献しようという方針のもと、気仙沼高校、登米高校の硬式野球部を招待、北摂つばさ高校主催による交流試合の模様を中心に発表されました。



特定非営利活動法人 高槻ブロードキャスト 災害時における臨時災害放送局開設のための準備・支援体制の構築活動

災害時の臨時災害放送局の必要性を啓発されています。アナウンス講習や、京都市中京区防災訓練での臨時災害放送局機材設置と情報収集の訓練を実施する模様について、映像等を用いて発表されました。



京都橘大学 救急救命研究会 TURF 助けよう! 大切ないのち さらなる救命率向上を目指して

地域住民の方々に、心肺蘇生法の普及に積極的に取り組まれています。AEDをもっと有効に使用すれば救命率や社会復帰率が向上するとの考えのもと、様々な地域のイベントで心肺蘇生法や応急手当を指導している様子や、今後の活動予定などを発表されました。



特定非営利活動法人 姫路発 中高生のための東日本大震災ボランティア 第三回東北の中高生による東日本大震災からの教訓講演会、及び防災アトラクション

東日本大震災を体験した中高生により、兵庫県の同世代の中高生に行われた講演会や、映像を駆使した防災脱出アトラクションの様子を発表されました。発表会場でも防災に関する練習問題を出題し、大いに盛り上がりました。



平群町ボランティア連絡協議会 みんなで作ろう! 防災かまどベンチ

平常時は「ベンチ」、災害時には「かまど」に使用可能な「防災かまどベンチ」の製作に取り組みられています。最近では平群町外でも製作資料の提供や実行委員の派遣を行っていることや、住民が一体となって「かまどベンチ」を作る様子を発表されました。



東日本大震災・暮らしサポート隊 みちのくだんわ室 (東日本大震災による県外避難者さんの癒しの場)

東日本大震災の避難者の悲嘆緩和、出会い、交流の場を創ることを目的とした「みちのくだんわ室」。だんわ室を開催された理念、活動の様子や、まだまだ避難は終わらない中で、様々な背景をもつ避難者にとどのように寄り添いけるかを発表されました。



塚田晃司 和歌山大学システム工学部 准教授 地域密着型の災害時狭域情報配信システムとその運用体制構築手法の提案と実証

ラジオを活用した災害時狭域情報配信システムの提案を目的とする研究をされました。災害時に必要な情報を適切に伝えたいとの思いから、地元の高校生と連携し、微弱FMやコミュニティFMを利用して、通信手段としてのラジオの実証評価、その運用システムについて発表されました。



大久保純一郎 帝塚山大学心理学部 教授 交通事故被害者に対する心理的支援モデルの構築と支援者養成

事故、犯罪被害者への支援担当者の養成プログラムの作成を目的とした研究をされました。被害者の数に比して、支援を担当できる心理士の絶対数が少ないとの思いから、ベテランの支援担当者の経験分析、被害者支援モデルを作成、実施したその効果について発表されました。



石見 拓 京都大学環境安全保健機構 教授 スマホを活用した市民救助者に対する心停止場所及びAED設置情報提供の試みと効果検証

スマートフォンを活用し、救助者の行動を地理的・時間的に捕捉し共有することで、救助者やAEDが迅速に心停止現場に到着する「AED救命アプリ」のシステム開発や、その成果と今後の展望(事業化、全国展開予定)について発表されました。



活動団体7組、研究者3名のステージ発表の後、37組の団体に、交流会会場でポスター発表を行っていただきました。ステージ発表の熱気そのままに、ポスター発表も大いに盛り上がりました。

● 交流会場でのポスター発表の様子

発表団体を代表して、震災発災以来、支援活動に真摯に取り組まれている「東日本大震災・暮らしサポート隊」副代表の石塚裕子様からご挨拶をいただき、交流会が開始されました。



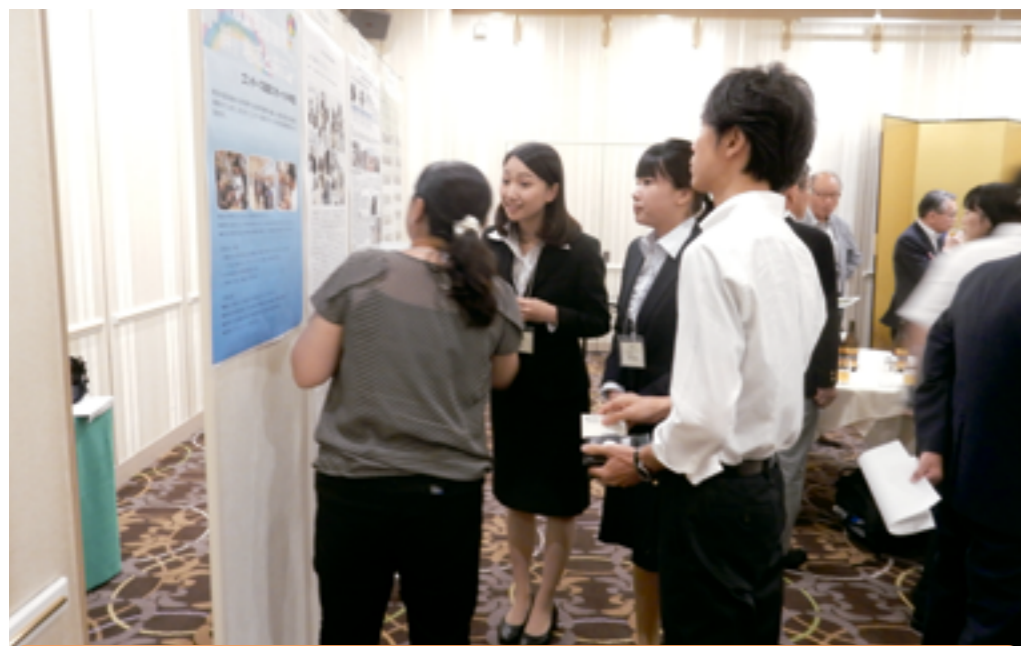
発表団体を代表してのご挨拶



多くの参加があった交流会の会場の様子



ポスターの前で説明に聴き入る参加者



積極的な意見交換

ポスター発表では、積極的に質問される参加者をはじめ、発表者同士で意見交換をして、お互いの今後の活動の参考とされている光景が見られました。

発表者、聴講者あわせて100名以上の参加があった成果発表会・交流会となりましたが、日頃の活動や研究に対する皆様の強く熱い思いが感じられ、今後のご活躍に期待を感じる有意義な会となりました。ご参加いただいた皆様、誠にありがとうございました。

平成29年度公募助成募集のお知らせ



心身のケアなど事故や災害に起因する身近な「いのち」を支える活動及び研究を応援します！

助成テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ● 事故、災害や不測の事態に対する備えに関する活動及び研究 ● 事故、災害や不測の事態が起こった後の心身のケアに関する活動及び研究 <small>※直接的ではなくても、上記内容に寄与する活動及び研究も含まれます。 ※東日本大震災・平成23年台風12号災害及び平成26年広島土砂災害に関する被災地・被災者支援活動については、活動助成の特別枠として募集しています。</small>
助成期間	平成29年4月1日から平成30年3月31日までの1年間
助成金	活動 1件 70万円以下 研究 1件 200万円以下
応募期間	平成28年 10月1日(土)～11月16日(水) 必着(厳守)
募集要項	募集内容の詳細はホームページ (http://jrw-relief-f.or.jp/) でご確認ください。
ポイント	<ol style="list-style-type: none"> ① 助成金は活動及び研究の開始前(平成29年3月下旬)にお渡しします。 ② 活動及び研究経費全額の助成も可能です。 ③ 助成活動及び研究に必要なアルバイト代なども対象となります。 ④ 助成対象団体に法人格の有無は問いません。

平成28年度の助成事例

【活動助成】

● かなしみぼすと

テーマ グリーフケア

内容 悲嘆の中にいる人が、悲しみを持ったまま行ける場「かなしみぼすと」を定期的開催し、その悲しみを共有化し心のケアを実践する。

【活動助成(特別枠)】

● NARA Will 奈良県立医科大学 学生災害ボランティアグループ

テーマ 医療系学生による福島県内での復興支援活動

内容 被災地において傾聴及び力仕事ボランティアを実施し、被災者のところに寄り添った支援活動を行う。

【研究】

● 関西大学 社会安全学部 准教授 永田尚三

テーマ 消防団の活性化に関する萌芽的研究

内容 危機が多様化する中、消防団が様々な特殊災害対応の中心を担っている現状・課題を踏まえ、実効性のある共助体制及び共助組織のモデルを提示する。

【研究】

● 兵庫医療大学 准教授 佐野恭子

テーマ 脳損傷患者へのリハビリテーション方法の提案

内容 前頭葉の脳損傷患者について、表情認知と表出の特徴から他者との良好な関係づくりに向けた方略を考え、必要なリハビリテーションの方法等を提案する。

※申込み用フォームについてはホームページをご確認ください。

【お問合せ先】 TEL:06-6375-3202(平日10:00~17:00)
E-mail:info@jrw-relief-f.or.jp

JR 西日本財団

検索

平成28年度 公募助成活動

● 公募助成団体の活動紹介

兵庫・生と死を考える会

講演会「人生の中の喪失と悲嘆」

サッカー元日本代表監督の岡田武史氏を招き、「スポーツ選手の喪失と悲嘆」と題する第一部と、「ジュニア育成指導者に求められるもの」と題する第二部の二部構成による講演会でした。ある意味「悲嘆メーカー」となってしまう監督としての思いを真摯に話され、約700名の参加者が熱心に聴き入っていました。



haha かひえ

子どもの防災お菓子リュック作り

親子で防災お菓子リュックを作りながら防災を学ぶ機会をさまざまなエリアで実施しています。工作過程での会話は親子のコミュニケーションにもなっています。リュックには、家族の防災意識向上や、電気や水が使えることが当たり前ではないことを知ってほしいとの思いがこめられているとのこと。



神戸親和女子大学 福祉臨床学科 戸田・深澤ゼミ

福島原発事故により被災した子どもたちへの支援活動

福島県田村郡三春町にある「三春の里 応急仮設住宅」にて、仮設住宅や近隣に住んでいる子どもたちへの学習支援活動が行われました。避難生活で、子どもたちは極めて高いストレスを抱えています。子どもたちも一緒に何かしてくれることをとても喜んでいる様子でした。参加した学生の皆さんも生き生きとした表情で、子どもたちとふれあっていました。



生きる力を育む研究会

伊丹市有岡地区 民生委員・民生協力員交流会でのLODEマップ研修

弱者の避難を一番に考え、弱者見守り型災害図上訓練ワークショップ LODE(L: こども、O: 高齢者、D: 障害のある方、E: 避難)方式を実践するべく、震災経験を元に作成した防災マップを作成しました。それを元に意思疎通の回り方や救助方法を真剣にグループワークしていました。この取り組みを校区住民全員に展開しており、非常によい取り組みと感じました。



虹色の音

追悼講演と音楽ライブ「天までとどけ!」

平成26年広島土砂災害の被災地で、亡くなられた方を追悼する講演と音楽ライブが開催されました。参加者とともに歌ったり、つらかった日々から前向きになるまでのご自身の体験談を織り交ぜる構成でしたが、希望の糧となるメッセージを随所に盛り込み、「必ず立ち直れる」という想いを繰り返し伝えておられました。



次世代防災研究者連盟

サマースクール2016 ~次世代の稲むらの火を構想する!

防災についての知識を獲得し思考を深めることを目的に、和歌山県広川町の稲むらの火の館で一泊二日でサマースクールが開催されました。約50人の学生が集まり、現地のフィールドワークやグループワークでは活発な議論が見られました。この経験を通じて得た知識を今後活用してほしいと感じました。



稲野自治会

体験型防災フェア

稲野自治会が主催する体験型防災イベントが行われました。大手前大学の協力のもと、防災展示コーナーやバザー、非常食の炊き出しなど様々なイベントが並んでいました。また日本レスキュー協会による災害救助犬デモンストレーションも多くの人を集め、市や大学、各種協力団体が合同となった防災フェアは地域に根ざした非常に有意義な活動だと感じました。



特定非営利活動法人 エンゼルネット

子どもとシルバー世代の為の防災救命訓練

防災訓練は、1歳~2歳の子どもたちから高齢者までが参加し行われました。火災や地震が発生したとの想定のもと、初期行動である「押さない・かけっこしない・しゃべらない・元の場所に戻らない」を確認し、近くの公園まで避難するという一連の訓練を行いました。高齢者は子どもたちを助ける側として、地域との交流を活性化させていました。



「虹玉の会」自死遺族サポート「虹」

映画上映・監督講演会

自ら命を絶ったミュージシャンと彼を慕う後輩、映画監督の「私」が織り成す青春群像ドキュメンタリー映画「わたしたちに許された特別な時間の終わり」の上映会と監督講演会が開催されました。上映後の質疑応答では参加した10代の若者が「死について見つめなおしたい、ありがとう」と泣きながら言葉を述べたり、参加者ほぼ全員が質問する1時間余りの講演となりました。



特定非営利活動法人 発達凸凹サポーターてくてく

事故、災害等発生時における発達障がい児への心理的サポート研修

発達障がい児が事故や災害時にパニックを起こさないよう、対応について学ぶ研修で、リラックスさせることを目的とした「親子ヨガ」が実施されました。泣き出す子や参加しない子もいた中、あせらず終始子どもの意思を優先していたのが印象的でした。親が体の緊張を取ることが、子どものリラックスにも繋がるとのこと、母子でスキンシップを取りながら楽しくレッスンを受けていました。



● 今後のイベント情報

かなしみぼすと

3回連続講座「悲嘆とともに生きる社会へ」

日時: 11月4日(金)、11月18日(金)、12月2日(金) 19:00~20:30
 場所: 市民活動スクエア CANVAS 谷町
 概要: 悲しみに暮れている方に、悲しみを「抱えながら生きる」ことができるように願う連続講座
 問合せ: かなしみぼすと
 MAIL: kanashimi-post@gmail.com
 HP: http://kanashimi-post.jimdo.com/

和歌山動物愛護推進実行委員会

いざ、という時のための「ペットの躰」教室

日時: 11月23日(水・祝) 9:20~15:30
 場所: 和歌山ビッグ愛 1階大ホール
 概要: ペットの同行避難訓練
 問合せ: 和歌山動物愛護推進実行委員会
 TEL: 090-3358-7931 FAX: 073-422-5045
 MAIL: wannwannakayoshi@yahoo.co.jp

救援ボランティア左京

救援救護講習

日時: 11月27日(日) 10:00~12:00
 場所: 京都市勤業館「みやこめっせ」地下第一会議室
 概要: 「クロスロード新聞」を使っでの講習や、心肺蘇生法と体位管理、「JCS(3・3・9度法)」の学習
 問合せ: 救援ボランティア左京
 TEL: 075-771-0366 FAX: 075-781-5035

中丹高次脳機能障害者と家族の会「さくら」

高次脳機能障害グループ訓練

日時: 12月18日(日) 13:00~16:00
 場所: 市立福知山市民病院会議室・市民交流プラザふくちやま調理室
 概要: 苦手な点や不得意なことを発見、見直し、有効な戦略を立てる練習を繰り返し行い、修正する訓練
 問合せ: 中丹高次脳機能障害者と家族の会「さくら」
 TEL: 0773-22-7859 FAX: 0773-22-7859
 MAIL: s-uehara@zpost.plala.or.jp

平成28年9月16日(金)、松下IMPホールにて「安全セミナー」を開催しました。今年度は、防災システム研究所所長の山村武彦先生にご講演いただきました。

防災においては、正しい知識を持ち、命を守る準備と行動が重要との実践的なお話で、たくさんの方に聴講いただきました。その講演内容の一部をお届けします。



「命を守るためのそれぞれの危機管理 ～その前に、そしてその時、すべきこと～」

巨大地震はいつ起こる?

近い将来、南海トラフ巨大地震や上町断層帯地震が起こると言われていますが、今夜起こると思っている人はまずいません。起きないと思ったほうが楽だから、人間は楽なほうを考えようとするわけです。しかし、まだ先だと思っている間は、防災や危機管理は真剣に考えることができないのです。数日もしくは数カ月以内に起こると思ったときに初めて真剣に備蓄したり訓練するようになるのです。

段取り八分とよく言いますが、事前対策が8割。災害が発生してから対応できることはせいぜい2割しかありません。だから、知識も行動も事前に準備しておかなければならないのです。

想定外に備える

熊本地震が起こるまで、熊本県ではホームページをつくって企業を誘致していました。そこには「熊本地域では過去120年間、マグニチュード7以上の地震は発生していない。だから、ここは安全地帯です。」と書いてありました。そうやって東日本大震災の後、いろいろな企業を誘致して、工場も随分熊本に移転しました。しかし、そこがみんな被災しました。地震学は進みましたが、予知学はほとんど進んでいません。世界で起こる地震の5回に1回は日本で起こっているという現実を見たら、日本に安全な場所はないという認識を持ったほうが間違いないと思います。絶対な安全はありません。

巨大津波が起こったら

東日本大震災の映像を見ると、津波がすぐそばまで来ているのにゆっくり歩いている人がたくさんいました。そういう人に「なぜ走らなかったのですか。足腰が悪いのですか。」と訊くと、「そうじゃないんです。走っているつもりでしたが、足が前へ進まないんですよ。」「何だかよくわからないのだけど、体がゆっくりしか動かなかったんです。」という答えでした。

イギリスの心理学者であるジョン・リーチ博士の研究によりますと、突発災害が起こったときに落ちついて行動できる人は約10%、取り乱す人が約

15%、残りの75%はショック状態、茫然自失状態になり、さらにその半数はその状態から覚めないのです。それを凍りつき症候群といいます。心と体が凍りついてしまって、今、自分が何をしなければいけないのかが出てこなくなってしまうのです。

自分の命は自分で守るのが原則です。凍りつき症候群を防ぐために、実践的な生き残り訓練をぜひやっていただきたいと思います。「グラッときたら、津波警報!津波・洪水逃げるが勝ち!」「俗説を信じず、最悪を想定して行動せよ。」そして、「遠くより、高く。」高いビルに避難すれば助かります。「健常者は車を使わず、駆け足で。」「一度避難したら警報解除まで戻らない。」こういうことをみんなが意識しておくことが大事だと思います。

安全ゾーンをつくろう

安全ゾーンというのは、転倒落下物の少ない、閉じ込められない場所のことです。地震のときに、机の下に潜るのも間違いはありません。でも、絶対ではないのです。なぜならばドアが変形したりして閉じ込められたときに、火災やガス漏れが発生したら逃げられなくなってしまう可能性があるからです。ですから、家庭でも職場でもこの安全ゾーンをつくって、小さな揺れや緊急地震速報のまだ動けるうちに玄関のドアを開けて避難経路を確保し、安全ゾーンへ移動することが大切です。目の前に火があれば火を消す。離れていたら後でもいい。その場にあわせた命を守る退避行動をとる。これが一番大事です。ぜひ、ご家族にも教えてあげてください。

ご近所で助け合うことの大切さ

防災は自助・共助・公助と言われてきました。これに加えて、“近助”がとても大切です。向こう三軒両隣の顔が見える助け合いや、近くの人が近くの人を助ける防災隣組をつくって、自分のために住みよいまちづくりから自ら参画していくことが大



事だだと思います。何かあったら行政職員も被災者になるのです。ですから、自分たちの町は自分たちで守る、自分や家族は自分が守るという基本認識を持つべきです。

私は自分が日本人でよかったと思います。日本で暮らせることは幸せなことなのかもしれません。これからも近助の精神で、助けられる人から助ける人へ、みんなが立ち位置を変えていけば、これからもずっと住みたい町になるだろうと思います。

救急フェアを開催しました!

JR西日本あんしん社会財団とJR西日本の共催により、各地域の消防署やNPO法人等の協力のもと、「救急現場に居合わせた時の救命処置」の重要性・知識及び方法を広く普及・啓発することで、ひとりでも多くの「いのち」を救えるよう、心肺蘇生法やAEDの使用方法等の体験イベントを開催しています。

平成28年度も「救急フェア」12箇所、「救9の日 駅で体験AED」12箇所で開催を予定しています。今回は、救急フェアin明石と京都鉄道博物館で開催した普通救命講習の様子をご紹介します。



★救急フェアin明石

明石駅救急フェアとしては3回目の開催となりますが、今年度は9月4日に、駅に隣接する商業施設「アスピア明石」のプロムナードという広場で開催しました。JR西日本の西明石駅管区の皆さんをはじめ明石電車区や神戸支社の皆さんのご協力のもと、明石市消防本部や兵庫県立大学看護学部の学生さんが、ご来場くださった市民の方々に初期救護の重要性をご説明し、いざという時のAEDの使い方や心肺蘇生法を体験していただきました。会場では、駅ホーム非常ボタン体験コー



ナーや子どもJR制服を着用してのイコちゃんとの記念撮影もあり大いに賑わいました。参加者からは「貴重な体験ができました。知らないことばかりだったので体験できてよかったです。」や「もっと、他の地域にも広げて、毎月どこかで開催してほしい。」等のお声をいただきました。

★京都鉄道博物館普通救命講習

9月1日の「防災の日」に京都鉄道博物館において、AEDの設置推進や応急手当の普及啓発に積極的に取り組んでいる「安心救急ネット京都」、京都市消防局との共催で普通救命講習を開催しました。9時30分から12時30分までの3時間、約100名の受講者が集まり大規模な講習会となりました。

講習会では、はじめに、昨年の祇園祭で曳き手の男性が突然倒れた際にAEDを使用して心肺蘇生を行い、一命を救う経験をされた鈴木みちるさんから「応急処置の重要性」について、当時報道されたニュース映像を交えながら講話をいただきました。「応急処置の重要性」について学んだ後は実技を行いました。今回は、「安心救急ネット京都」に加入している事業所から資格を持った方が来られて指導員を務め、しっかりと心肺蘇生法・AEDの使用法の講習をしていただきました。参加者からは「今後は、人が倒れた場に遭遇したら、積極的に救命処置をしたい」といった声などをいただきました。



平成28年度AED訓練器等提供団体の活動紹介

平成28年度AED訓練器等提供団体の活動が始まりました。各所で動き始めた活動の様子をお伝えします。

北区救急ボランティア

阪神・淡路大震災での経験をもとに、一般市民同士で行う救命処置の重要性を知ってもらうため、小学校から社会福祉施設、自治会で、学生・赤ちゃん連れのお母さん・外国人・障がいをお持ちの方など、幅広く救命処置の講習会を行っています。



西宮応急手当グループ



地元自治会や学校を中心に普通救命講習を開催。学校での講習会も多いため、プールで溺れたときの対処方法など、シチュエーションを変えながら実習しています。熱心な指導者と受講者で、いつも活気あふれる講習会を実施しています。

社会福祉法人 白寿会

施設の職員や入居者の関係者などを対象に講習会を実施。特に毎月9日を「救9の日」とし、啓発活動に取り組んでいます。AEDの設置場所を聞いてみたり、前回の講習内容を復習しながら、しっかりと身につくように講習しています。



けやき台自治会



地元自治会の防災会と防災士が毎月救命講習を行っています。地元での活動だけでなく、近隣の自治会への普及活動も実施しました。また、地域の夏祭り会場への出張講習会も開催し、広く応急処置の普及に取り組んでいます。

117KOBEぼうさいマスター育成会議

サッカースタジアムやコンサート会場において、来場されていた方を対象に救命講習を実施しました。学生が主となって講習会を行い、市民の皆さんに積極的に参加してもらえるよう活動しています。



大阪市立墨江丘中学校



教職員や生徒、PTAを対象に救命講習を実施。保健の先生が指導者を務め、普通救命講習を修了した生徒が講習のサポートをする形で参加して、昼休みなどにも行っています。また、地域住民への普及にも取り組むこととしています。

平成28年度 今後の救急フェア開催のお知らせ

JR西日本あんしん社会財団とJR西日本の共催により、各地域の消防署やNPO法人等の協力のもと、「救急現場に居合わせた時の救命処置」の重要性・知識及び方法を広く普及・啓発することで、ひとりでも多くの「いのち」を救えるよう、心肺蘇生法やAEDの使用方法等の体験イベントを開催しております。お近くにお越しの際は、ぜひお気軽にご参加ください。

★ 救急フェア

開催日時		会場
11月 3日 (木・祝)	13:00～16:00	大阪駅(※)

※「救急フェスタin大阪」として第4回いのちのリレー大会を15時まで開催

★ 救9の日 駅で体験AED

開催日時		会場
11月 9日 (水)	13:00～14:30	京橋駅
12月 9日 (金)	10:30～12:00	垂水駅
1月 9日 (月・祝)	10:30～12:00	京都駅
2月 9日 (木)	13:00～14:30	鳳駅
3月 9日 (木)	13:00～14:30	姫路駅

Facebook はじめました!

JR西日本あんしん社会財団では、このたび Facebook を開設しました!!

「公募助成」、「AED訓練器等助成事業」、「連続講座『いのち』を考える」、「いのちのセミナー」、「安全セミナー」をはじめ、主要駅で開催している「救急フェア～身につけよう心肺蘇生～」や「救9の日 駅で体験AED」などの募集案内や開催当日の様態等々お役に立つ活動の情報を発信してまいりますので、皆さんの「いいね!」「シェア!」をよろしくお願いいたします!

<https://www.facebook.com/JR.West.Relief/>



編集後記

第6回公募助成成果発表会を開催しました。ステージ発表で熱く活動・研究内容を語っていただき、交流会で行われたポスター発表でも活発に意見交換が行われていました。活動・研究団体が一堂に会する機会を有意義に活用されている様子が伺えました。「いのち」を支える活動・研究をしている皆さん、平成29年度の公募助成へのご応募をお待ちしております。
(編集者：稲)

〒530-8341 大阪市北区芝田二丁目4番24号
TEL：06-6375-3202 FAX：06-6375-3229
E-mail：info@jrw-relief-f.or.jp
URL：http://jrw-relief-f.or.jp/